

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

12/21
(木)

他国際交流団体との交流

No. 115

Association for Toyonaka Multicultural Symbiosis

公益財団法人

とよなか国際交流協会



とよなか国際交流協会は1993年に設立された公益財団法人で、大阪市、大阪国際空港、千里ニュータウンや大阪大学に隣接し、阪急・豊中駅前のビル内に活動の拠点を持つという立地条件に恵まれた場所に位置しています。「豊中のまちから、世界と未来に向けて」をキャッチフレーズに、共に生きる社会の実現をめざす新しい市民文化の交流拠点として、そして外国人市民との多文化共生をめざした様々な国際交流事業を活発に行っています。

ふれあい交流サロンは、誰もがいつでも利用できる“人と情報の交流スペース”で、多言語の新聞、雑誌や図書の閲覧ができるコーナー、無料で利用できるインターネット接続パソコンなどがあります。また外国人支援のための日本語活動を中心とした対話



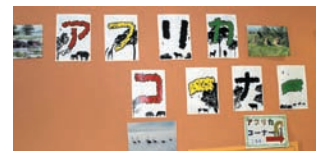
と交流を創造する、コミュニケーションコモンスペースもあります。その他、貸室もしています。また多文化共生の象徴として、通路スペースを利用し、世界を地域別にわけて各国の生活文化が一目でわかるような紹介コーナーもあります。

岸和田市国際親善協会でも日本語サロンで日本語学習支援に力を注いでいますが、当交流協会においても活発な日本語交流活動が行われています。「教室型」ではなく、「交流型」の日本語活動で、日本語を学ぶだけでなく、生活情報を得たり、「ライフライン」となる人との出会いの場となっています。週5回にわけて各グループの特徴を活かした、すべてボランティアによる活動です。更に充実しているのは、毎週金曜日10か国語対応による「外国人のための多言語による相談サービス」(面談と電話)で、専門家と多言語スタッフが、あらゆる領域の相談に応じています。その、「外国にルーツを持つ子どもの居場所作り・交流の場」や「世界を食



◀世界の言語別絵本

▼地域別文化の紹介



べよう」等々、その活動範囲の広さに、今回の訪問に参加した15名の皆さんも大変驚かれたことでしょう。

豊中市の在住外国人は約5,100名。当交流協会内施設を利用している外国人は年間延べ約32,000名です。これは全体の利用者約80,000名の40%を占める高い利用率です。このような幅広い活動とたくさんの外国人が参加できる環境が整っているのは、豊中市行政との緊密な連携に依るものだという強い印象を持ちました。最後には活発な意見交換を行うことができました。そして今後の私たちの協会の運営において大いに参考になる有意義な訪問でした。(広報部会)



「にゅとぴあ 岸和田」は世界のひとと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

Youは何しに岸和田へ?

Why did you come to Kishiwada?

「広報きわだ・1月号」で紹介された「Youは何しに岸和田へ」は、ユニークな企画で読者に好評を博しました。そこで当協会広報部はその続編 PART2として「You」4人の方々に「にゅ〜とびあ」独自の視点で、お国自慢、文化の違い、けったいな習慣、行政への不満、将来の展望等々について突撃インタビューしました。



我が故郷グリーンベイの自慢は、過去9回優勝しているNFL チーム・パッカーズです。プロスポーツ唯一の「市民が所有するチーム」で、全米規模で根強い人気を持っており、町民が所有する岸和田だんじり祭りと同じです。岸和田在住28年になりますが、伝統的な行事に戸惑うものもあります。新生児の「食い初め」にどうして蛸を食べさすのか、七五三の行事でどうして女の子が2度なのに、男の子は1度なのか。茶道、空手の型、初詣神社参りなどの作法、一体誰が決めたんだろうと不思議に思いますが、滑稽だとは思ったことはありません。外国人という概念について理解できません。日本で生まれ、大きくなって外国人です。私はアメリカよりもずっと長く岸和田に住み、永久ビザを持ち、税金も納めているのに、投票権はありません。でも今まで何度も見知らぬ人たちから助けられました。日本ではお互い助け合うという精神、これが私の尊敬するボランティア精神につながっています。阪神淡路大震災を経験していますので、防災として数日間インフラがストップした場合にそなえて、携帯発電機、飲用水を備えています。また避難所もどこか確認しています。しかし岸和田には緊急の場合の英語ホットラインがありません。外国人を雇っている会社は仕事の垣根を越えて、密接な言語サポートを構築することが必要だと思えます。私は今素晴らしい家族（妻、2人の娘、義母と柴犬チャンプ）に恵まれ本当に幸せです。いつまでもこのままで居たいです。これ以上何を望むことができますか? 😊



アメフト・ランボーフィールド



ロバート ガリティさん
アメリカ合衆国
ウィスコンシン州グリーンベイ



ペルーには世界でも有数の世界遺産がたくさんあり、日本からも大勢の観光客が訪れますが、国の外貨は観光収入に頼らざるを得ないのが現状です。ペルーではお金のない人は学校も病院にも行けません。従い比較的労働ビザの取りやすい日系の人たちは、良い仕事を求めて日本へやって来ます。しかし、日本の社会は厳しいです。私は「まじめに働けば必ず報いられる」という信念を持っています。そのお蔭でマイホームを持つことができ、ずっと岸和田に住んでいることに感謝しています。日本人はとても誠実で、何事にも疑うという精神はありません。反面、物事にこだわり過ぎて、しつこい感じがします。岸和田と言えば、だんじり祭りですが、毎年「お花代をお願いします」とお願いされます。最近これが寄付を意味するものとわかりましたが、寄付というのは社会全体の為に寄与されるべきだと思います。日本では場所や席を確保するために荷物を置き、「ここは私の席です」とアピールしますが、私の国では高い確率で持ち去られます。しかし、私もすっかりこの習慣に慣れ、同じようにして座席の確保をしています。ペルーも地震大国ですので、その怖さは十分に認識しています。日頃からリュックに非常持ち出し品を用意しています。しかし、もし岸和田が大震災に襲われた場合、私たち外国人はとても不安です。せめて外国語版のハザードマップだけでも必要です。何処に避難所があるのかもわかりません。外国人にも安心して住める岸和田の町づくりを希望します。



マチュピチュ



フタガキ ホルへさん
ペルー
マドレ デディオス



私の出身地である中国ハルピンは今、建物の高層化や交通網の整備が進み急ピッチで国際的大都市に移行中です。時々、帰郷すると迷うほど急速に変貌を遂げつつあります。来日して十数年、当初は全てが新鮮で毎日がハラハラ・ドキドキの連続で、周辺の全てを吸収しようと好奇心に溢れていましたが今は慣れもあり、その様な気概も希薄化しマンネリを自覚していますが、この辺で初心と原点に戻り再出発の時にしたいと思います。多くの日本人との交流の中で感じるの日本人は同調意識が高く、とかく団体行動に走りがちだということです。もっと競争原理を導入して出る杭は打たず更に伸ばすという態度が必要です。

岸和田は世界に最も近い城下町と言われますが、関空から降り立ったインバウンド客は岸和田に立ち寄りません。これはハード（宿泊、交通等）とソフト（ホスピタリティ、システム作り等）両面の仕掛けが不足しているからです。岸和田城やだんじり会館等の市街地の施設だけでなく千年以上の歴史を持つ米田寺周辺を知るインバウンド客は少なく、アクセスも整備されていないのは残念です。最近、中国内陸部で巨大地震が連続しており、日本でも南海トラフ地震の恐怖も現実化しています。私はこれらに対して意識も浅く全くの無防備でしたが、今後は、せめて最小限の食料備蓄には取り組みたいと思います。



氷まつり

私の夢は今の貿易関係の実務経験を生かして起業すること、そして私の理想に向かって共に歩めるような白馬の騎士が目の前に現れないかなあ!!



丁 立浄 /
チョー リツジヨウさん
中国 ハルピン



Youは何しに岸和田へ?

Why did you come to Kishiwada?

ネパールは自然豊かで物価も安く住み良い国です。世界最高峰エベレストはネパールの象徴で、嘗ては、あまりにも高く誰をも寄せ付けませんでした。今では世界からの関心を集めて離さず多くの登山家にとって憧れの山です。日本の富士山の穏やかな美しい姿も素敵ですが、エベレストには厳しい美しさがあり私は大好きです。仏教と言えばインドが本拠地と考えられていますが、釈迦生誕地はネパールのルンビニで世界遺産にも指定されています。ネパールの国旗も私の自慢の一つです。世界の国旗は全て四角ですがネパール国旗は世界で唯一二つの三角形を組み合わせたペナント型で青と赤のコントラストが鮮やかで月と太陽が描かれているのも印象的です。思えば7年前、一言の日本語も判らないまま関空に降り立ち、手違いで夫の出迎えが遅れ、大変心細い思いをしたことは忘れられません。それ以来、日本語を学びつつ夫の事業を手伝い自らも関空の関連会社で働き子供を育ててきました。日本の方々は優しいですが日本に住んで日本人と同様の生活をしている私達を特別扱いせず、日本人と同じ扱いをして頂きたいと思えます。岸和田の町は清潔です。毎朝、近所の年老いた女性が道路のゴミを拾いながら歩いています。先日の寒い雪化粧の日も続けられており感心しました。私はネパールで生まれ育ち、今は日本で、その文化や生活習慣にもすっかり慣れ、多くの友人知人に恵まれ生活しています。二つの国は色々な面で多くの違いがありますが、両方の体験が出来て私は幸せです。



バタライ カンデル
サビトリさん
ネパール



エベレスト



日本語サロン ボランティア レベルアップ講座編

母語しか話せない大人・子どもに対して、どのように日本語を教えたらいのか。学校で国語教育を受けている子どもたちに、どのような日本語教育が必要か。今回の日本語ボランティアレベルアップ講座では、こうした課題への取組について、Minami こども教室実行委員で、こどもひろば事務局長の鵜飼 聖子さんを講師にお招きしました。

講座では、Minami こども教室を立ち上げた経緯から、日本で暮らす外国人・外国ルーツの子どもたちが日本語を学習する際に直面する課題について、事例も交えながら学びました。そして、2017年4月9日にNHKで放送された外国ルーツの子どもたちの1年を追ったドキュメンタリー「さやかとりき」を見ました。言葉の壁、不安定な環境で生きる子どもたちの実情、彼らの生活から垣間見える孤独や寂しさ。過酷な環境の中で、時に振り回されながらも、遅く、そして懸命に生きる子どもたちの姿には、思わず胸を打たれました。

大人と子どもでは、母語が確立しているか否かに大きな違いがあります。日本語学習の支援をする際にも、その点を踏まえておく必要があります。そして、ボランティアは、時には専門的な支援への橋渡し役を担うこともあるといいます。鵜飼さんの熱のこもったお話には、目から鱗の連続でした。時間的な制約がある中、とても充実した資料をご用意くださり、実際に使っているテキストなどもお持ちいただきました。そして、質疑応答の際にも親身になってお答えいただいたこと、この紙面を借りて御礼申し上げます。(磯崎 大詩)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《季節の行事》



私が通っていた英国の学校では、イースター(復活祭)の前に行われる行事の中のひとつにアッシュ・ウエンズデー(灰の水曜日)というものがありました。イースターの40日ほど前の水曜日に先生に引率されて近くの教会へ行き、各自の額へ司祭に灰で十字を書いてもらいます。この灰は前年に典礼で使用された枝などを燃やしたもので、この日に自らを悔い改め、断食をし、清廉な心身で復活祭を迎えるという意味だそうですが、当時は何のことかよく理解できておらず、お互いおでこを見せ合って、はしゃいでいました。

このアッシュ・ウエンズデーの前日の火曜日がパンケーキデーです。テレビでも毎年、取り扱われる行事で、イースター前の断食が始まるので、家の卵を使い切るために始まったという説などがあります。この日は給食もパンケーキ、家に帰ってもパンケーキ、パンケーキをたくさん食べた一日でした。

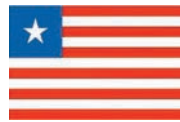
パンケーキデー前の1週間が謝肉祭です。かつてはアッシュ・ウエンズデー以降、肉、乳製品、卵は復活祭の日まで食べないため、お肉に別れを告げる宴を催していたそうです。その謝肉祭の最終日(火曜日、灰の水曜日の前日)がパンケーキデーでした。毎年2月頃で、学校もこの時期に2学期(スプリングターム)のハーフタームホリデーが1週間あり、そのあとイースターホリデーが2週間あります。休みが多くて楽しい季節です。

皆さんご存知のように、イースターはその年の春分の日の後の最初の満月の次の日曜日なので、毎年、日にちが変わります。学校では卵や鳩やウサギなど、イースターにちなんだモチーフの工作をして楽しんだ記憶があります。春の訪れを皆で喜び合い、家族や友人と集まって過ごすという意味合いの方が今では主体のようで、季節を楽しむ行事として、生活の中に溶け込んだ慣習として楽しまれています。日本の節句などの行事と似ていますね。(緒方 理世)

12/16 Tarsha Marthies さん
(土) (リベリア)

今年最後のイングリッシュ・オープン・カフェに、リベリアからのターシャさんをお迎えました。リベリアは青いビーチや青い湖、青い山々の、きれいな自然がたくさんある国ですとおっしゃるように、ターシャさんも鮮やかな青い民族衣装に全身青でコーディネートして来られ、私達を魅了させてくださいました。とてもチャーミングな外交官です。

実際にリベリアとはどんな国なのか、私には想像出来ない程遠くにある国です。こうしてお会いしてお話を伺えるのは、関西国際センターがあって、そしてイングリッシュ・オープン・カフェのおかげです。リベリアは、その国旗が表しているようにアメリカと非常に近い国で、アメリカから移住した人たちによって1847年に建国されました。その後はたくさんの内紛を経てきたそうです。現在はノーベル平和賞を受賞したエレン・ジョンソンという女性の大統領がおられ



るそうです。リベリアの誇るべき人だとのこと。

リベリアではダイヤモンド、金、銀、鉄、ゴム、パーム油が豊富で、最近では石油の開発もされ、その方法も海外に学ばなければとおっしゃっていました。

また車といえばトヨタ、電気製品はパナソニックだとか。日本人が15人しかいないという遠い国での日本のがんばりに、うれしくなりました。

今回のターシャさんのお話で、私自身あまりにも知らないことが多いことに気付かされました。そしてターシャさんにも、もっと日本のこと、岸和田のことを紹介したいと思いました。
(西山 みゆき)



1/20 Hector Zapata さん
(土) (ホンデュラス)

English Open Café 2018年の最初のゲストは、ホンジュラスより、母国で大学の英語教授をされている Prof. Hector Zapata エクトール サパタさんです。大変若くて、清々しい印象の方でした。最初に母国の紹介がありました。

人口は911万人、面積112,0902㎡(日本の約1/3) 3/4は高原です。公用語はスペイン語です。英語を話す人は、ごく僅かです。国民の殆どが MESTIZO で、原住民とスペイン人の混血です。国旗は2本のブルー(カリブ海と太平洋を示す)と5個の星(中央はホンジュラス、他の4個は隣接国)を示しています。常に風水害の危険にさらされており、1998年のハリケーン MITCH では大被害を受け、20%の人々が家を失い、70%のインフラが破壊されました。日本とホンジュラスは80年以上の国交があり、長年にわたり、JICA よりの無償援助、2015年には、天



皇家から眞子様のお訪問など、大変友好的な関係にあります。

国情は、政権不安定で、貿易収支は悪く、収入は輸出品のコーヒー、カカオ、メロン、バナナ等と海外からの援助、海外への出稼ぎ者からの送金です。コロンビアからアメリカ合衆国への麻薬中継基地であり、世界でも大変危険な国とされています。国情を大変オープンに紹介していただき、参加者全員、サパタさんの誠実さを受け留められた事と思います。今後のホンジュラスは大変でしょうが、我々から、何が提案できるか考えてみましょう。サパタさん、有難うございました。両国の友好関係が末永く続く事を願っております。
(大塚 洋)



2/17 Lysiane Soazafy さん
(土) (マダガスカル)

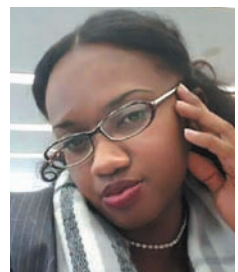
若き外交官リジー(リジアンヌ スアザフィ)さんの祖国愛に溢れた、素晴らしいプレゼンテーションに魅了されました。マダガスカルはアフリカ大陸の南東、インド洋に浮かぶ島国です。アジアの影響を色濃く受けた独特の文化があり、公用語はマダガスカル語とフランス語です。リジーさんご自身は7つの言語: マダガスカル語、Tsimhety dialect(方言)、フランス語、英語、ドイツ語、中国語、日本語(学習中)を話せるそうです!!

雨季と乾季があり、マンゴーが出回ると雨季が始まる合図です。主食はお米で、料理の写真も沢山見せて頂きました。日本の JICA が米作を中心とした農業支援、インフラ整備、基礎教育の改善、保健医療機関の環境改善等の支援を行っています。バオバブの木が大変有名で、専門のガイドに



よるツアーが人気です。国章のタビビトノキ(ravenala)は扇子を広げた様な木です。

国旗の白は平和、緑は自然、赤は粘土の色を表し、家の外壁にも赤い粘土が使われ、The Red Island の別名があります。ワオキツネザルはとても可愛く、バニラビーンズが特産品で化粧品もバニラの香りが人気です。Raphia という野菜の皮で作ったカラフルな小物入れを数点見せて頂きました。女性や男性のカラフルな民族衣装や小物もお持ち頂きました。「素晴らしい自然に出会えます。日本の皆さん、マダガスカルにどうぞいらして下さい。」リジーさんからのメッセージです。
(雪野 美智代)



第25回 KIX 泉州国際マラソン

2/18
(日)

数日前の厳しい寒波が和らぎ、暖かい日差しが心地よい絶好のマラソン日和となりました。今年岸和田市が友好都市から招待した選手は、中国広東省汕頭（スワトウ）市の鄭志標（テイシヒョウ）さん一人でした。彼は一昨年に続き泉州国際マラソンに2度目の参加になります。

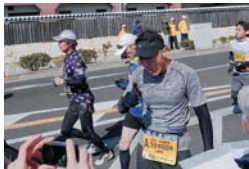
16日（金）、五風荘において国際親善協会・日中友好協会・日韓



親善協会三団体共催による招待選手歓迎交流会が開催されました。この日はちょうど旧暦のお正月、また鄭さんは戌年生まれで今年は年男、おめでたいムードが場を一層盛り上げてくれました。就任13日目の永野新市長も、ご挨拶に駆けつけてくださいました。鄭さんは、汕頭市体育局

勤務でお子さんが二人いらっしゃいます。以前の中国は子どもを一人しか持てませんでしたが、2年前に始まった二人っ子政策を実践しているようです。昨年発足した KIMONO クラブのメンバーも、練習の成果を発揮して着物姿で参加し花を添えました。

マラソン当日は、岸和田城お堀端の消防署岸城分署前で通訳の大滝さん、日中友好協会の皆様と共に沿道応援をしました。岸和田城前通過は12時14分、チョコレートと栄養ドリンクと熱い声援を受けて、元気よく走り抜けて行きました。その後前回り10分もタイムを縮めて、4時間23分47秒で無事ゴールされたそうです。鄭さんお疲れ様でした。そして会員の皆様応援ありがとうございました。（事務局）



Mixed Roots
学習支援

外国にルーツがある子供たちが、たくさん日本に暮らしています。岸和田市国際親善協会が発足し、すぐに日本語サロンが立ち上がり、長年に亘り日本語の学習支援を行ってきました。以前の学習者は、仕事で日本に数年間滞在し、その後帰国してしまう方が大半でした

が、最近の学習者は、岸和田に暮らす方々が主になってきています。そういった家族の子供たちは、日本人生徒と同じ市内の小学校や中学校に通っています。日本語がわからないままに同じ教室で授業を受けることとなります。教育委員会では、彼らのために通訳を探し出し、一週間に一日、数時間だけ、授業中に入って通訳のお願いをしているそうです。もちろんそれだけではなく、各学校の先生方も彼らのために、いろいろと尽力されているようですが、外国人への日本語の指導経験がない学校の先生には大変です。そして、十分に日本語が理解できないままに、学校の教室に座っていなければならない彼らも大変です。

そこで、Mixed Roots では、彼らのための学習支援を毎週土曜日に行っています。来日した年齢によって日本語の指導の方法を変え、個々に応じた日本語学習支援を行います。また、子供たちと一緒に来たご両親の、学校に関しての質問にも答えています。現在の Mixed Roots のスタッフには、元教師であった方々がいますので、入学式と一緒に参加したり、不都合なことがあると、元同僚の強みで連絡をとってくれたり等、心強いばかりです。

しかし、遠くて参加出来ない子供たちがいることが問題です。親に連れて来てもらわないと、一人でマドカホールまで来る事はできません。このような問題を解消すべく、先日私たちは教育委員会を訪問し、日本語学習支援が出来るスタッフを各学校へ派遣できる旨、PRさせていただきました。彼らには日本語学習支援が必要です。一緒にサポートしませんか？

（東田 和代）



地球家族

瀬戸際の地球

「地球は人間なくとも存続できるが私達は地球なくして生きられない



（アミーナ・モハメッド国連副事務総長）。「昨年、環境NGO(CAN)はパリ協定離脱宣言のアメリカに特別化石賞、日本に化石賞を贈る。」

大型台風やハリケーンの増加、大量降雨と洪水、旱魃と砂漠化、北極圏での海水減少、海面上昇による国土水没危機、動植物への影響（ホッキョクグマやスマトラトラの減少、サンゴ白化等）、異常高温やエルニーニョによる生活環境悪化、進化論の島ガラパゴスの生態系崩壊。これらは地球からの悲痛なる叫びであり我々への警告である。地球温暖化による気候変動は地球規模の異常気象をもたらし、今や全世界に大きな被害を与えている。

IPCCが地球温暖の原因は人間活動にあると問題提起して既に30年になるが、現在の世界平均気温は一昨年迄3年連続で観測史上最高を更新している。97年京都議定書は温室効果ガスの削減を規定したが幾多の努力にも拘わらず、顕著な成果を挙げられないまま16年パリ協定が発効し、産業革命からの気温上昇を2度程度抑え、今世紀後半には温室効果ガス排出の実質ゼロを目指すことになる。

我々は地球からの数々の恵みを受け繁栄を謳歌してきたにも拘らず、母なる大地に害を与え続けてきた。その結果、我々は沈みゆく多くの国々の兄弟姉妹を苦しめ、更には今後我々の何世代にも及ぶ子や孫に今の未解決問題をしわ寄せし、犠牲を強いることになる。

温暖化対策は「もはや手遅れ」でもなく、「個人の力では如何ともし難い」ものでもなく、我々の友人であり仲間である動植物を含めた地球家族全体の問題として英知を結集して、地球ファーストで取り組まねばならない。今、地球は大きなターニングポイントにあり、存続への瀬戸際にある。

（奥野 藤樹）

岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



KISHIWADA
特別号

第1回から第25回まで取材しました皆さんの国別一覧表です。さまざまな国の皆さんが、私たちそして岸和田市と関わって下さっています。

第1回 86号		USA	第2回 87号		インドネシア	第3回 88号		韓国
第4回 89号		USA	第5回 90号		台湾	第6回 91号		カナダ
第7回 92号		ネパール	第8回 93号		フィリピン	第9回 94号		韓国
第10回 96号		内モンゴル	第11回 97号		ベトナム	第12回 99号		ボリビア
第13回 101号		スペイン	第14回 102号		ブラジル	第15回 104号		インドネシア
第16回 105号		ペルー	第17回 107号		USA	第18回 108号		中国
第19回 109号		ペルー	第20回 110号		インドネシア	第21回 111号		ペルー
第23回 112号		イラン	第24回 113号		ベトナム	第25回 114号		フランス

岸和田市在住外国人の国籍別登録人口

(各年末)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
総数	1952	1931	1930	1876	1820	1844	1974	2102	2165
韓国・朝鮮	1205	1171	1155	1109	1053	1020	1004	970	942
中国	304	329	342	359	352	330	338	352	367
アメリカ	29	27	30	26	24	23	28	27	25
ブラジル	61	49	44	43	41	51	94	103	105
フィリピン	119	131	113	102	109	113	123	136	153
インドネシア	49	34	32	21	35	49	77	110	105
タイ	19	22	51	27	14	13	17	16	
ベトナム	64	60	61	58	58	84	109	153	180
その他	102	108	102	131	134	152	184	235	288

典拠：市・市民課

Information

■2018年度 総会

- 【とき】2018.5月6日(日)13:30~
- 【ところ】浪切ホール 4F 交流ホール
- I部 総会
- II部 外国人による日本語スピーチ大会
- III部 創立30周年のつどい
- *詳しくは同封のちらしをご覧ください。

■English Open Café

- 【とき】9月以外の第3土曜日13:30~15:30
- 【ところ】マドカホール 3F 視聴覚室他
- 毎回、外交官などのスピーカーをお招きし各国のプレゼンをしていただきます。申込なしでどなたでも参加いただけます
- 進行は全て英語です。

■創立30周年記念事業サウスサンフランシスコ市訪問

- 【とき】2018.10月23日(火)~28日(日) 4泊6日
- *旅費など詳しくはチラシをご覧ください。

■「第14期日本語ボランティア養成講座(初級)」開講

- 外国人へ日本語学習支援の基礎技術を学びます。
- 年齢・資格・外国語能力は問いません。2年間の修了後ボランティアとして活動できる方は受講料無料。
- 別にテキスト代実費と、協会へ入会(年会費2千円)が必要です。
- 【とき】2018.5月~12月の木曜日 19:00~20:30
- 【ところ】市立職員会館2階 大会議室(21講座)
- 【開設説明会】2018.4月19日(木)19:00~
- 職員会館
- 出席できない方は、申込時に申し出ください。

にゅとびあ岸和田 No.115 編集担当

飯田正明・大塚洋・緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋裕・中塚義幸・三森すみ代
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694

事務局 e-mail アドレスが
kokusai@sensyu.ne.jp に変更となりました